



ごみのちょっとしたお話③

今年度もごみの分別などの記事を多く掲載し、ごみ減量を訴え続けてきましたが、減少傾向はなかなか見られず、ごみの中に多くの資源物が混入している状況にあります。地球環境問題が叫ばれる今、私たちはごみに対する意識も変える時ではないでしょうか？

☆約1480万円(紙資源)がごみに なっています！

平成19年度に家庭から出たごみの量は、約1万7300トン。そのうち、減らすことができる「もったいない」ものが約41%も入っており、重量にすると約7000トン。このうち資源として活用できる紙類は約14%で、重量にすると約2400トン。売却すれば約1480万円の収入が見込まれました。それでは、紙資源の出し方についてポイントをお知らせします。

材質が紙であればほとんどの紙が資源化できましたが、現在は紙の中にいろいろな素材を混ぜているものが増えていますので次の点にご注意ください。

☆小さな紙も紙製封筒に入れてリサイクル

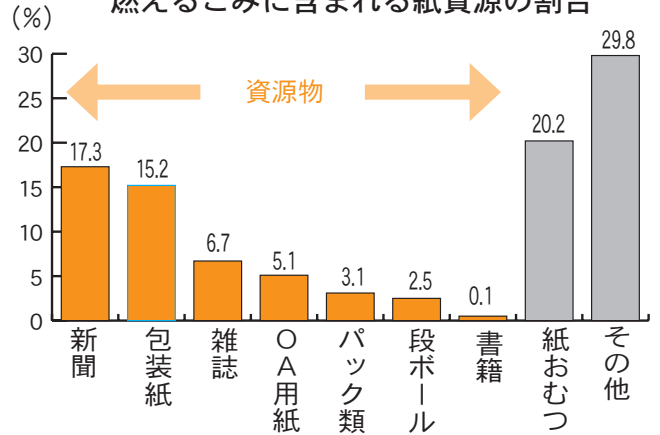
小さな紙(名刺くらいからは雑誌などに挟んで出していただく)ですが、散乱するなどの理由からほとんどが燃えるごみになっているようです。小さな紙は紙製封筒などに入れると散乱しません。

また、お菓子の箱や包装紙などは、新聞販売店で配布している紙袋を利用すると便利です。その時、新聞・広告と一緒にしないこと、袋に「紙」と書くことがポイントです。

☆資源にならない紙

ビニールコーティングしたもの、金色・銀色に加工されたもの(金属を使用)、感熱紙(FAX、レシートなどに使用)、カーボン紙(字が写る紙)、ダイレクトメールなどに多い圧着用はがき、せつけん箱など強いにおいがついたものは、資源になりません。燃えるごみとしてお出しください。

燃えるごみに含まれる紙資源の割合



☆判断の困難な紙

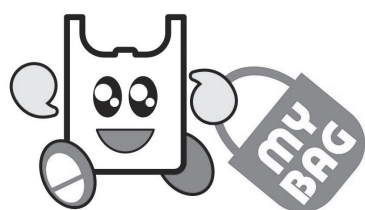
紙袋でビニールの取っ手や金属が付いたものは取っ手や金属を外してください。紙袋のように見えるものでもコーティングがしてあるものは資源となりません。
※資源になる紙はきちんと分別し、燃えるごみの中に入っている紙資源を減らす協力をお願いします。

☆レジ袋削減の検討を始めています

大変便利で使い勝手のよいレジ袋ですが、平成19年度に市の燃えるごみの中身を調査した結果、年間

約260トン(3400万枚相当)・市民1人当たり年間使用枚数は約430枚)のレジ袋が廃棄され、およそ1580トンのCO₂(二酸化炭素)が排出されたことになりました。また、レジ袋1枚(約7.6グラム)を作成するには、約20ミリリットルの原油が使用され、1年で約68万リットル(ドラム缶3400本分)の原油が焼却されたことになりました。地球温暖化防止やごみの減量化を図るに当たり、レジ袋削減はすぐにも、誰にでも取り組むことができ、かつ大きな波及効果が期待できるものです。

現在、市民団体の方々とレジ袋削減に向けた勉強会を設置し、どのような取り組みができるか2月から検討を始めています。今後は、事業者の方も交えて協議していく予定です。



レジ袋を削減する運動

問い合わせ 市廃棄物対策課 ☎ 87

3・2111内線1571〜1572、牛久クリンセンター

☎ 830・9333